



# 町長のしごとと日記

第69号

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～  
【養殖昆布の収穫が本格化・・・】

山々の木々が緑の深みを帯びてきて、初夏の風が心地良く感じられる季節となりました。

六月二十日(日)まで

延長された、道内二回目となる緊急事態宣言が六月二十一日(月)に解除されましたが、未だに厳しい状況が続いております。

そのような中、漁業関係者待望の福島漁港船揚場屋根施設がこのほど完成し、六月一日(火)にオープニングセレモニーが開催され、函館開発建設部函館港事務所の高橋所長及び溝部議長並びに福島吉岡漁業協同組合の松村副組合長など関係者によるテープカットが行われました。

当施設の完成により、養殖昆布作業の衛生面の向上はもとより、雨の日も作業が容易になるなど、品質及び作業効率の向上が期待されております。

工事期間中、船揚場利用の漁業者にご不便をおかけし、ご協力いただき

ましたことに、改めて感謝を申し上げますとともに、工事に携わっていただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

今年は大きな時化もなく昆布の生育も順調と伺っておりますので、六月二十二日(火)頃から本格化する収穫作業に期待を寄せているところであります。ウニと養殖昆布は、前浜の生産額約十億円の六〇七割ほどの割合を占めており、町の重要な基幹魚種となっております。

これから八月上旬までの約二か月間は、町内が一年で一番、にぎわい活気づく時期でもあります。

私も町長就任前の二年間、早朝午前三時から起きて昆布の洗浄をお手伝いさせていただき、その後、深夜まで知内町のニラ集荷センターで集荷場の仕事をした経験があります。

朝が早く、深夜も遅くなることがあり大変でしたが、その経験が今の自

分を支えているような気がして感謝しております。

昨年に引き続き今年もコロナ禍での収穫作業となり、例年になく苦労も多いことと思いますが、期間中の安全操業と作業員の方々の安全、そして昆布の豊作を心から願っております。

新型コロナウイルスの集団接種が順調に進んでおり、六月五日(土)・六日(日)、十二日(土)・十三日(日)に二回目の接種が行われ、多くの高齢者の方々が会場に足を運んでくださいました。

優先接種者で残りの七十一歳から六十五歳以上の方の一回目の接種が六月十九日(土)・二十日(日)の二日間に行われております。また、病院での個別接種も開始しておりますので、一人でも多くの町民の皆様へ接種していただき、穏やかな日常が戻ることを願っております。

また、町では六十四歳以下の方々への接種券の

案内を、六月中旬に発送しております。なお、国の方針では接種できる年齢基準を十六歳から十二歳に引き下げする方向で検討されておりますので、方向性が定まりましたら、順次対応してまいります。

厳しい時代を生きる知恵として、古典の中に「老子」の言葉があります。

新型コロナウイルス感染症という新たな脅威と対峙し、老子の説く「道」と「徳」を考えた時、特に人間に必要な「徳」を備えることが、今を生きる私たちに求められているような気がいたします。

「無心、柔軟、謙虚、素朴、控え目」などからなる「徳」を身に付け、この厳しい時代を生き抜く徳を身に付け、社会的弱者の視点で、激動する現実を凝視し、私たちが進むべき「道」の方向性を導き出すことにより、弱者の思いに寄り添うことが大切なことと思えます。